**五大堂**

五大堂は中禅寺最大の堂で、五大明王が祀られている。中禅寺湖を見渡すことができ、他の寺の建物よりも高くそびえ立っている。この五大明王は、天台宗や山岳修験の中心的な存在であり、日光山の至る所に存在している。その中でも最も強力な不動明王は、通常、護摩焚きの祭壇に祀られている。

**歌ヶ浜**

五大堂の真正面にある水辺は、歌ヶ浜と呼ばれ、8世紀から宗教修行の場となっている。勝道上人が設けた春の巡礼の最後の地であり、僧侶たちは四月の二十日間、湖畔で読経をしていたという。「歌ヶ浜」とは「歌の浜」という意味で、勝道の前に天人が現れて歌を歌いながら降りてきたという伝説に由来している。

**五大堂の内陣**

五大堂の上層階にある祈祷殿には五大明王が祀られている。中央には不動明王が立ち、右には降三世妙王と軍荼利妙王、左には大威徳妙王と金剛夜叉妙王が並んでいる。 彼らは通常、獰猛で威嚇的な姿で描かれ、しばしば炎に包まれている。その獰猛さは悪を退けるために用いられ、その炎は情念や物質的な欲望を燃やし、信者の目標達成を助けると言われている。

 五大堂の天井には、雲に囲まれた白と黒の大きな龍が描かれている。これは、東照宮の薬師堂の天井に描かれた龍の絵を修復した堅山南風（1887～1980）の作品である。知恵王像の前には護摩焚きの祭壇がある。その上の天井の花は、南風の弟子の一人が描いたものである。